



# 自衛隊栃木地方協力本部

## 栃木県最大のお祭り！ふるさと宮まつりを支援 ～あなたのまちの自衛隊～



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 松田 桃子<sup>1</sup>陸佐）は、8月2日（土）、3日（日）の両日、宇都宮市内の大通りで開催された「第50回ふるさと宮まつり」を支援した。

同まつりは例年8月の第1土・日曜日に開催され、みこしの参加数は防衛医科大学校50基以上と北関東最大級で、来場者数も60万人となる栃木県最大のお祭りである。

正午にスタートした「宮っこみこし」に、今年もみこしの担ぎ手として参加した。えんじ色の半纏に身を包み、暑さに負けない熱気と情熱の汗を流しながら市内を練り歩く隊員たちの姿が見られ、自衛隊の精強さをアピールすることができた。

また、日中催事の行われているオリオンスクエアの一角では、広報展を実施した。募集説明ブースのほか、南極の氷の展示や帽子の試着などを行い、多くの来場者に人気を博していた。ブースの前では、ステージ上で行われる催事や和楽器などの演奏を聴きながら、色とりどりの浴衣を着た来場者たちが列をなし、賑わいをみせていた。

まつりの後半には、交通規制時間帯に合わせ、警備の支援に計29名が参加し、迷彩服や部隊帽、そろいの「自衛隊」オリジナル缶バッジを身に付けロープ警備の配置についた。隊員たちに、「お疲れ様です。暑いですが頑張ってください」、「自衛隊さんって色々な活動をしているんですね。いつもありがとうございます」と、声をかける来場者も多く、まつりを通して多くの人に自衛隊の存在をより身近に感じてもらうことができた。

栃木地本は、「今後も、各種イベント等を通じ地域住民との出会いとふれあいを大切にしながら、多くの方々に自衛隊の存在をより身近に感じてもらう、自衛隊に対する関心や理解の促進を図り、募集基盤の拡充につなげていきたい」としている。

